

R I 第 2820 地区

水海道ロータリークラブ



CELEBRATE
ROTARY

100 Years

2004-05 年度 国際ロータリー会長
グレン E. エステス・シニア

NO. 2 0 1 8

例会 2004 年 12 月 15 日(水)

鈴木・大串年度テーマ

『原点に戻ろう！』

そしてさらなる飛躍を！！』

12 月の会長ポイントメッセージ

ロータリーの基本は家族の愛と協力から！！



12 月は家族月間です

本日のプログラム

点 鐘

ロータリーソング

ビジター紹介

出席報告

SAA 報告

諸 報 告

幹事報告

会長挨拶

前期事業報告

各委員会委員長

次回 12 月 22 日(水) 予告

前期事業報告

各委員会委員長



米山梅吉記念館前での集合写真

2004 ~ 2005 年度

会 長 鈴 木

豊

幹 事 大 串

卓

例 会 場 ・ 例 会 日

事 務 所

〒303-0023 茨城県水海道市宝町 2790

〒303-0023 茨城県水海道市宝町 3386

常陽銀行水海道支店内 3F

釜久ビル 3F

毎週 水曜日 12:30 ~ 13:30

0297-22-1251

0297-30-0875

Fax0297-30-0876

E-mail mitsu-rc@lapis.plala.or.jp

URL <http://kinuyou.com/rc/>

本例会でのおもな事項

- * 会長挨拶
- * 年次総会
- * 誕生祝
- * 前期総括 会長・幹事

誕 生 祝 おめでとうございます。



会 員 田上秀雄会員(11月) 隅屋祐三会員(12月)
配偶者 齊藤会員 五木田会員 染谷(秀)会員

表 彰

米山功労者



田上秀雄会員



福田克比古会員



青木正弘会員

諸 報 告

ロータリー財団委員会 (松村仁寿委員長)

ご報告をさせていただきます。1人130ドル、クラブ目標額1万ドルと設定させて頂きましたか、1人304ドルという金額が集まりました。有難うございました。

国際奉仕委員会 (染谷秀雄委員長)

来年1月9日より1月22日、オーストラリア、ツウンバから5名の学生が来日することになりました。

幹 事 報 告 (大串 卓幹事)

週 報 受 理 なし

例会変更通知受理 なし

ロータリーレートの変更

平成16年12月……1ドル=104円

平成17年1月……1ドル=102円



会員の皆様の協力、又和久さんのお手伝いのお蔭で何とか5ヶ月過ごすことが出来有難う御座いました。前期を振り返ってとの事ですから、実際に幹事としての仕事が始まったのは4月の地区協議会くらいからですが、本年度、鈴木会長の方針で前期に3つの大きな行事が控えておりますので活動が5月から始まりました。5月26日には、第一回クラブ協議会が開かれ、鈴木年度の活動方針等が発表になり、7月に早速節目の2000回記念例会を開催することが決まり、6月に入るとすぐ青木清人企画委員長の

下計画が練られ、7月31日椿山荘において、家族親睦納涼会を兼ねた2000回記念例会が、多数の会員、家族の参加を得て盛大に開催されました。次は、10月6日のガバナー公式訪問ですが、先ず現況報告書の作成は、和久さんに原本を作って頂き、青木正弘会員の印刷機をお借りして印刷し、会員有志のお手伝いで製本し、完成しました。今回のガバナー公式訪問では、鈴木会長の強い意志で実質100%出席例会にしたいとの事で、角田出席委員長と共に連絡にあたり、1週間くらい前まで少しシツコイ位に電話させて頂きましたが、皆様の協力のお蔭で10月6日は、100%全員の出席のもと例会を開くことが出来感謝いたします。次は、10月31日～11月3日に開催された、国際ロータリー100周年社会奉仕プロジェクトですが、この準備は8月頃から、秋田社会奉仕委員長が実行委員長になり、関連の委員会が実行委員として準備が進められました。プロジェクトの内容としては、ネパールの子供たちと水海道地区の子供たちとの絵画の交換展示、国際ロータリー100周年及び水海道ロータリークラブ42年活動の歩みのパネル展示、職業奉仕活動による無料相談で、多数の市民の方々に来て頂き大成功でしたが、ただ無料相談は1件もなかったのが残念でした。前期の事業も忘年会を残すのみですが、まだ半分以上の年度が残っておりますので、皆様の協力が無事1年間過ごしたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

会長挨拶 (鈴木 豊会長)



こんにちは。もう12月に入りました。月日の経つのは早いもので、あっという間の5ヶ月でありました。後程半期分の反省点等を述べさせて頂きたいと思っております。

さて、先月類似する事件、余にも悲惨な出来事が茨城県で起こってしまいました。何が原因なのか??分かるようで分からない加害者の胸の内、探りようもないのですが、京セラの稲盛和夫氏の「生き方」という本の件に『私たちはいま、混迷を極め、先行き見えない「不安の時代」を生きています。豊かなはずなのに心は満たされず、衣食足りているはずなのに礼節に乏しく、自由なはずなのにどこか閉塞感がある、やる気さえあればどんなものでも手に入り、何でも出来るのに無気力で、悲観的になり、なかには犯罪や不祥事に手を染めてしまう人もいます。多くの人が生きる意味や価値を見出せず、人世の指針を見失ってしまっているからではないでしょうか。』という件があり、このような時代をどのように生きたら良いかという問題に入って行く訳です。今、コンピューターゲームの余にも過激なバーチャルソフト、または親が子供に対する期待感の高さ、物質的豊かさの反動による定職を持たない層、俗にフリーターという人種が50～60万人とも言われる現在、そして言論の自由を履き違えたマスコミ、出版社の行き過ぎ問題、色々問題点を挙げればきりがありませんが、とにかくどの家族でも多少なりの問題点は抱えているのではないのでしょうか。今回の事件を通して色々と考えさせられました。皆様は、どのような考えをお持ちですか。

今日は、これから本題となります。ただいまより、水海道ロータリークラブ定款・細則第4条第1節により、年次総会を始めさせて頂きます。議題は、次年度の役員及び理事の選挙であります。すでに、水海道ロータリークラブ指名委員会規定により、11月10日に会議が持たれ、7人の指名委員の内6人出席、そし

て翌々年度の会長選出を行いました。出席者満場一致にて、松村仁寿会員を選出、推薦させていただきます。また、今日の年次総会にて役員、理事の選挙とありますが、当方で案がございますので、提示させていただきますがいかがでしょうか。……拍手……

それでは、次年度の役員、理事の案を提示致します。

会長・青木清人会員、副会長・松村仁寿会員、直前会長・鈴木 豊会員、幹事・熊谷 昇会員

SAA・石塚克己会員、会計・青木正弘会員……以上が役員

理事として、染谷秀雄会員、北村陽太郎会員、海老原良夫会員、山崎進朗会員、以上であります。皆様のご承認を頂きたく宜しくお願い致します。……承認……

有難うございました。それでは、青木年度どうぞ宜しくお願い致します。これもちまして、年次総会を終わらせて頂きます。

次に、半期報告をしなさいというプログラム委員長から仰せつかりましたので、反省点を含めて報告させていただきます。

RI会長、グレン・E・エステス・シニア氏の提唱する「ロータリーを祝おう」の旗印の下、永井ガバナー年度の準備として、3月20～21日、水戸三の丸ホテルにてPETS。初めての会長エレクト顔会わせ、4月29日、地区協議会が県民文化センターにて行われ、いよいよ私の年度も始まるのだなと心を引き締めたときでもありました。5月26日、クラブ協議会(水海道生涯学習センター)を開き、RI会長、永井ガバナーの基本方針を伝え、そして「原点に戻ろう！そしてさらなる飛躍」のスローガンの下に、私の委員会へのワンポイントメッセージを含め、目標設定をさせていただきました。そして、7月本番に入ったわけです。

7月31日…東京椿山荘にて2000回例会を、一期一会の精神の元、開催させて頂き、楽しい一時を過ごさせて頂きました。

8月4日～8月20日……オーストラリア、ツウンバへの交換学生派遣

10月6日……ガバナー公式訪問(100%出席例会のもと実施)

10月29日……水海道グランドゴルフ大会(150名出席)

10月31日～11月3日……社会奉仕100周年記念プロジェクトを実施、会員66名、多数の見学者を得た。(開かれたロータリー、地域に根ざしたロータリー、PR等)

今後は、12月4日米山記念館への見学、12月11日忘年会であります。

その時々で、反省点も山ほどありましたが、この反省点を今後の事業へ良きアドバイザーとして生かして行きたいと思います。

時間がありますので、話題を変えたいと思います。

私は、17年前の4月6日にロータリーに入会致しました。その当時、ロータリーの存在は雲の上の組織とっておりましたから、入会するなど夢のまた夢でありました。いざ入会しましたところ、息詰まるような雰囲気とその当時魔の水曜日と呼び、水曜日が過ぎるとほっと致しておりました。そうこうしているうち多少慣れてきて、今ではロータリーなくして生活は出来ないまでとなってきました。地区の青少年交換委員会で、学生の質問があり、冷や汗を掻いたときがありました。「あなたは、なぜロータリークラブに入ったのですか？」との問いでありました。咄嗟に私は、「一人では奉仕活動も微々たるのも、世界組織であるロータリーに入ればより多くのボランティア活動が出来るから」と答えました。しかし、本音の部分は違っておりまして、先輩から無理やり誘われたから入会してしまったので、ロータリーなんか全然理解なんかしておりませんでした。それから17年間、今でもロータリーの事は分かりません。しかし、会長職を引き継いでからは色々ロータリーについて考えさせられることが多くなりました。近年、ロータリーの会員が減少ぎみであり、特に先進国が顕著でありと聞いておりますが、経済不況の原因のみで説明が出来るものでもありません。私は、ロータリーの魅力そのものが少なくなったのではないかと思います。その魅力とはなんのでしょうか。ロータリーのステイタスと思います。ロータリーに名を連ねるだけでステイタスを得られた時代はそれなりに魅

力があつたと思いますが、今や時代も変わりそのステイタスが希薄になってしまったのではないのでしょうか。その原因は、RI理事会、規定審議会等々の決議事項の緩和に起因すると思います。出席率60%、5人までは同業者OK、メイクアップの緩和、テリトリーの緩和等々において、そのルールの緩和策がそのステイタスを希薄にしているのではないのでしょうか。なりふりかまわずの会員増強の手立ては、かえって魅力を損なう結果となりはしないかと危惧するものです。まあ、そんなことを言ってもまだまだロータリーは捨てたものではありません。ロータリーの歴史を紐解けば、大正12年関東大震災が発生したとき、国際ロータリー、米、英、カナダを始め世界中の503に及ぶクラブから、続々と義援金、物資が送られてきて大きな成果を呼ぶことが出来、これがきっかけにより日本のロータリーの発展の契機となりました。しかし、昭和14年ごろから、軍部や右翼による思想の抑圧が表面化して、ついには国際ロータリーから離脱せざるをえなくなりましたが、しかし各クラブは名を変えて隠れキリシタンのように、東京水曜会、大阪金曜会というように地下に潜って例会を続行したと聞いております。なぜ、そこまでしてロータリーを続けてきたのか考えさせられますが、良き基本理念、良き哲学の上に育ってきたロータリーは、どのような時代を迎えようとその考え方は間違いなき思想であり、哲学であります。自己より利他の心、精神を唱えており、永遠のテーマでもあります。そこに大きなロータリーの魅力があるわけです。前から私は、ロータリーは親睦ありきでその上に奉仕活動が成り立つと思っておりますが、その親睦というものはゴルフをしたり、酒を楽しもうという同好会のような「感性的な親睦」の魅力ではなく、ロータリー運動に内在する魅力、ロータリアンの心を引きつける「精神的な親睦」がロータリーを動かす大きな魅力となり、得るものと確信しております。どうか、皆様ロータリーの魅力をもう一度どういうものか検討して頂き、今後のロータリーの活性化につなげたいと思います。有難うございました。

出席報告 (角田雅宣委員長)

会員総数	出席者数	欠席者数	賜暇	メイク
50名	35名	15名	1名	14名

出席率 100.00%

ニコニコボックス (青木正弘委員長)

誕生祝御礼 会員 隅屋・田上 各会員 配偶者 斉藤・五木田・染谷(秀) 各会員
寒さが一段と増してきました。お体に十分気をつけて、例会への出席をお願いします。鈴木(豊)会員
寒くなってまいりました。健康に気をつけて下さい。大串会員
先週ポールハリスフェロー賞を頂きました。石塚(克)会員
例会続いて欠席致しました。また本日、米山功労者の表彰頂きました。福田会員
暫く休みが続きました。今日より100%出席を目指します。青木(清)会員
本日も出席できました。山野井会員
漸く出て来られました。田中会員
休みが続いて申し訳ございません。今日も休みます。瀬戸会員
長期間欠席申し訳御座いません。田上会員
例会欠席しました。草間・横山・古谷 各会員
忘年会シーズンです。体を大切にしましょう。青木(正)会員

入金計 ¥63,000 累計 ¥1,233,000

会報委員会 委員長 斎藤広巳 副委員長 大塚令昌

親愛なる同僚ロータリアンの皆さん:

ほぼ100年前、ポール P ハリスという名前の一人の孤独な若い弁護士が、彼の3人の友人と一緒にクラブをつくることを決めました。それぞれが違った職業に従事していましたが、彼らは小さな町の出身者であるという一つの共通点をもっていました。四人はシカゴという騒々しい街に住み、小さな町特有の親切心や若者同士の一体感といった温かさに飢えていました。ポール ハリスは1948年に出版された『ロータリーへの私の道(My Road to Rotary)』の中で次のように述べています。「シカゴという大都会で集まった、この小さなグループの会員にとって、ロータリーは砂漠のオアシスのようなものでした」思いやりのある雰囲気を楽しむために、ポール ハリスはロータリーの根幹ともなった、家族と地域社会に対する意識が芽生えるようにクラブをつくり上げました。ロータリーは、四人の創設者で始まり、今では166か国におよぶ、あらゆる職業の会員を有する「世界家族」にまで発展しました。

家族に手を差し伸べ、参加を勧める

この100周年の年度も、ジョナサン マジアベ2003-04年度国際ロータリー(RI)会長によって始められたロータリー家族推進計画を引き継いでいきたいと考えています。RI理事会は、家族に手を差し伸べ、それらの人々をロータリーに参加させる理想的なときとして、12月を家族月間と決めました。ロータリー家族心づかい奨励グループは「奉仕の機会としての知り合いを広めること」というロータリー綱領の第1を強調するために、各ロータリークラブや地区に情報を提供したり、支援したりしています。ロータリーは家族月間を祝うためのいろいろな方法を提案しています。会員たちは病気のロータリアンを訪ねたり、配偶者や子どもたちに奉仕活動や親睦のための行事に参加するよう勧めたり、家族の中にいる会員候補者にロータリーに入会するよう誘ったりすることもできます。また、私たちの世話や援助を必要としているかもしれない故人となったロータリアンたちの家族への気配りにも、特別に努力をすべきです。

ファーストネームで呼び合う

私たち自身の家族をロータリー家族に統合することも大事です。ロータリーは、ロータリアンと家族を引き離す方向へ進むのではなく、ロータリアンが家族たちと一緒に連れてくる場であるべきです。各ロータリークラブや地区は、すべての会員の心を打つ、いろいろな奉仕活動や特別な社会的な活動を提供できます。もし私たちが、子どもがいたり、とても忙しい若い会員層を引きつけたいと思うのなら、これはとても大切なことです。私は家族を最優先に考えるアメリカ南部の出身です。3人の子どもと8人の孫たち全員が車で行き来できる範囲内に住んでいます。私はロータリー家族の中で育ちました。5人の兄たちはロータリアンで、そのうち3人はクラブ会長を務めました。息子もまたロータリアンです。

私が仕事に就いて間もないころ、新しい町へ引っ越したことがありましたが、そのとき、ロータリーは、扉を開き、環境の変化に順応する手助けをしてくれました。地元のロータリークラブに入会したとき私は歓迎され、ロータリーに所属しているのだということを実感しました。「自分を呼ぶときにはファーストネームで呼んでください」という企業のトップリーダーたちにも会うこともできました。私たちはすぐに地域社会の一員になったのです。

常に仲間であられること

ロータリアンになってからの44年の間に、多くの傑出した人々と出会いました。私にとってロータリーの最もいいところは、常に仲間であられるという点です。外国のクラブを訪ねたときですら、私は終始友人に囲まれていると実感します。ポール ハリスはかつていいました。「友情は、ロータリーを築く岩のように堅固な土台であり、寛容の精神は、ロータリーを結びつけるものです」。親類、友人、そして仕事仲間を招いて、ロータリーの楽しさを分かち合いましょう。100周年の年度に、あなたが世界で最も大きな家族の一員であることを祝ってください。